

ICT活用し地域に根差す人材育成

聖ヨゼフ学園日星高校(京都・舞鶴市)

「SDGs未来都市」(内閣府)の二つ、京都府舞鶴市。地元の恵まれた自然環境や地域のリソースなどを生かし、聖ヨゼフ学園日星高校(出野健資校長、生徒39

8人)では地方創生を目指す独自のカリキュラムを作成・実践している。軸となるのは総合的な探究の時間(以下、「総合探究」)。本年度は教科横断的な授業づくりにも着手した。同校は(公財)パナソニック教育財団の特別研究指定校。ICT(一人一台端末など)を効果的に活用し、地域に根差す人材の育成に力を入れて取り組んでいる。

「総合探究」軸に独自カリキュラム

水辺に立ち並ぶ家、漁港や漁船の風情ある景色が見られる「吉原入江」。生徒たちが「舞鶴のよいところ」の一つに選んだ場所だ。実際に現地を訪れ、一人一台端末を使い、その見どころを写真に残していった。

徒たちは話し合いを重ね、ロケーション「五老ヶ岳公園」や舞鶴屈指の「園」などを選んだという。

これは「SDGs・V市役所」フィールドワークという取り組み。連携している市役所の各課担当者から課題が与えられ、生徒たちはその解決に挑む。このグループには、広報広聴課から「『舞鶴のよいところ』をSNS(インスタグラムなど)に発信し、投稿した内容の反響を分析する」という課題が与えられた。生



風情ある景色が広がる「吉原入江」を訪れ、その見どころを写真に残す生徒たち

進路学習と関連付けキャリア教育充実

「総合探究」のカリキュラムでは、まず1年生でグループ研究に取り組む。柱は二つある。一つは「日星ゼミ」。地域の活性化を目指す一般社団法人KOKI-Nの協力・サポートの下、舞鶴のことを深く知り、自分自身の未来も考えていく。もう一つは、持続可能な舞鶴市について考える「SDGs・V市役所」。学びの環としてフィールドワークにも出掛けている。その後、2年生では個人研究や企業インターンシップを行い、3年生では卒業論文の制作に取り組む。探究学習と進路学習を関連付けることでキャリア教育の

充実を図っている。「繋がる、伝える、作る」をキーワードに、一人一台端末も効果的に活用。まず

教科横断コーディネーターが授業構想

少子高齢化や人口減少などが進み、教育現場でも舞鶴の魅力に触れる機会が多くなかった。舞鶴市がSDGs未来都市に選ばれたことで、「SDGsを『産官学をつなぐツール』や『地方創生を考える材料』の軸に据えようと考えた」

日星高校が導入しているアプリをうまく活用す



小柳 和喜雄
関西大学教授

ちは自分の課題に合わせ、を通して多くの情報を得る。ポートフォリオ(集める)「長や今後の進路などをユラムの充実につながる」リフレクト(振り返る)。

アプリを効果的に使い

それは大きな特色だと思ふものを「セレクト」する。こうした活動の一つである。ト(選ぶ)「できる。その動と関連付けることで結果的に活用されている点」題が「自分ごと」になり、に着目したい。

また、本年度から取り組んでいる教科横断的な授業づくりにも注目している。高校での事例は少ない。ここでもアプリが効果的に活用されている点

健康なダイエットとは「な 75・0452 日星高校1120773・